

お詫びとご案内

半世紀の歴史をまとめるべしでありましたが、残念ながらできませんでした。
申し訳ありません。

ただ、資料として

白鷺連合会青年部の四半世紀をまとめたものが
機関誌「わかさぎ」24号にありました。

関連記事も含めてご覧いただきたいと思います。

※この小紙の後ろ側から縦書きでご覧ください。

スキャナーで撮ったものを載せていますので、読みづらいかもしれません。
そのあとの25年がまとまれば、半世紀です。

機関誌「わかさぎ」が廃刊になってからの青年部活動の報告は
白鷺広報誌「白さぎ」にある「青年部だより」に継続されました。
青年部大会の報告を中心にご覧下さい。

第49回白鷺連合会青年部吟詠大会を終えて

青年部部長 池田 悦 聖

白鷺連合会会員の皆様こんにちは! 日頃は、青年部の活動にご理解をいただき誠にありがとうございます。また、青年部に対して叱咤激励いただきましてありがとうございます。

今年度は、平成28年10月30日(日)に西淀川区民ホールにて第49回白鷺連合会青年部吟詠大会を開催し、大変盛會に無事終わることが出来ました。大会には、白鷺連合会の皆様や青年部OBの先生方、会員各位をはじめ、総本部の来賓の諸先生・白鷺連合会の役員の諸先生・友好青年部の諸先生他約181名の参加で大盛況に開催できました。これも皆様方の多大なるご協力、ご支援のお陰と感謝しております。また、松尾鷺恵先生・伊東鷺伸先生・松野春秀先生のご出席も賜り大変恐縮しております。更にサプライズで愛国詩吟総連盟二部吟士権者の南方快聖先生の御範吟も賜りました。

大会は、テーマを「奏 かなで」と設定し、「つながり」と称して構成吟で「LOVE SONG 百人恋唄」をし、百人一首の中から恋の歌を男女で朗詠いたしました。

この大会は、いつもの吟詠中心の大会でなく、和歌・俳句・新体詩中心の大会にいたしました。

青年部大会名物の「飛び入り吟詠のコーナー」も熟のこもった批評で大変盛り上がりました。また、「ご来賓の先生と連吟コーナー」も今回は、川村朋映先生と河野纒焔部員が連吟をさせていただきました。

大会は、いろいろ反省すべき点がありましたが、それを次回に生かして今後進めていきたいと思えます。また、部員の吟力もより一層の向上を図っていきます。

地方の青年部と交流しようという事で各地の訪問を実施していますが、今回は、白さぎ吟行会が岡山であることから、岡山大学吟詩部を訪問しました。

平成29年度で白鷺青年部は、第50回の大会を迎えます。50年の長きにわたり青年部の諸先輩の作り上げてきた伝統を守りつつ、新しいことに挑戦していきたいと思えます。さらに第50回記念大会を平成30年2月18日に盛大に開催したいと考えております。大会テーマは「半世紀」～ここから～です。

たくさんの皆様の御参加をお待ちしております。

今後も青年部の活動に更なる叱咤激励をいただき、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



第48回白鷺連合会青年部吟詠大会を終えて

青年部長 池田 恍 聖

白鷺連合会の会員の皆様こんにちは！ 日頃は、青年部の活動に対してご理解をいただき誠にありがとうございます。白鷺青年部は、部員が仕事で忙しい中なんとか活動を続けております。さて、昨年度は予定しておりました第47回大会が思いもよらぬ台風の襲来により、やむなく中止としたことを残念に思い、皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

今年度は、平成27年9月27日(日)に西淀川区民ホールで第48回白鷺連合会青年部吟詠大会を開催し、大変盛会で無事に終わりました。これも白鷺連合会の皆様や青年部OBの先生方、会員各位の多大なるご協力、ご支援で無事終えることができました。大会には、総本部の来賓の諸先生・白鷺連合会の役員の諸先生・友好青年部の諸先生他約200名の参加で大盛況に開催できました。これも皆様方のご協力の賜物と感謝しております。

大会は、昨年・一昨年に続きテーマを「煌きらめき」と設定し、「かなたへ」と称して構成吟で「源 義経」を、最後に2年越しで練習をしてきました手話を披露させていただきました。

青年部大会名物の「飛び入り吟詠のコーナー」も熱のこもった批評で大変盛り上がりました。また、前々回から実施しています「ご来賓の先生と連吟コーナー」も今回は、熊谷峰龍先生と

安田事務局長が連吟をさせていただきました。そして、今回から青年部員と会員の連吟コーナーを始めました。これも定着していきたいと考えております。

大会は、いろいろ反省すべき点がありましたが、それを次回に生かして今後進めていきたいと思っております。

青年部では地方の青年部と交流しようという事で各地の訪問を毎年実施しています。前回の吟行会で森口雪孝先生を委員長として青年部が実行委員を務めることになり、それに合わせて豊岡を訪問しました。

今年度は、実施できるかどうかわかりませんが、計画しております。来年度については、吟行会が岡山ですので青年部が再度実行委員を引き受けるということで、岡山を訪問することを予定しています。

平成29年度で白鷺青年部は、第50回の大会を迎えます。50年の長きにわたり青年部の諸先輩の作り上げてきた伝統を守りつつ、新しいことに挑戦していきたいと思っております。さらに第50回記念大会を盛大に開催したいと思っております。今後も青年部の活動に更なる叱咤激励をいただき、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

最後に今回の青年部大会に参加してくれた子供たち、ありがとう！

忙しいなか、協力して大会を作り上げてくれた青年部のみんな、ありがとう！！



「東日本大震災復興支援チャリティー in 奈良 ～つなごう明日へ～」
大会を終えて

白鷺連合会 青年部部长 西谷 苑 鈴

平成23年9月23日(祝)第44回青年部大会はお陰様をもちまして、盛会のうち無事終了することができました。

今回、青年部出吟者が30人強と増えた為、青年部の吟詠が主となり、皆さまには各会・支部合吟とさせて頂きました。喜ばしい悩みです。

平成23年は悲しい年で「東日本大震災復興支援チャリティー」と銘うっての大会、「少しでもいい、詩吟を通じた仲間ができることを!」異文化交流を兼ねたチャリティーコンサート形式で行いました。

会場は奈良、大会準備中協賛団体も見つけ、地元奈良の企業が協賛品を提供して下さり、協賛品の詰合せを来場下さった方へプレゼント、吟詠普及活動にもなるようプレゼント袋の中へ勧誘のチラシとアンケートを…。「予想以上に良かった、先生方の吟をもっと聞きたい、ご指導が解りやすかった」など貴重なご意見を頂きました。

準備期間半年!月2～3回のミーティング、例年と形式が異なり、戸惑いもあり大変な労力を重ねる中、「被災地の事を思えば、何だってできる!」また募金していただいた方やご来場者方に、被災地への思いを込め、青年部手作りでご飯の一膳一膳の喜びを感じて頂きたいという願いを込め『「一膳一笑」笑来箸袋』をプレゼント、大変好評でした。

午前は錬成大会、午後はチャリティー大会「優秀者吟詠、太鼓、パフォーマンス書道、邦楽、詩舞、バンド演奏、ヒップホップダンス」との共演でご来場の皆様に楽しんでいただけたかと思えます。

最後は「Tomorrow ～つなごう明日へ～」の

手話ダンス、会場を一つに出来たと思います。

「当日にしか参加できなくて…」と広島鷺夕会、若林、藤本さん、岳豊会の川見さん、鷺伸吟詠会名古屋のメンバー、今回初参加の鷺声吟詠会の藤原さん、関西大学吟詩部のみなさん、みんなで作った大会です。

日頃から自由に伸び伸びとさせて頂き下さる植村鷺登先生、白鷺役員の先生方、またお励まして頂く先生方に青年部を代表してお礼申し上げます。

「火が消えないよう、白鷺の先生や先輩は薪をくべている」と塩路澄誠先生に聞いたことがあります。ならば青年部は自ら燃える発火体にならなければ!!

「青年部燃えます～♥」燃えすぎて、火力調節、消火していただかないと、と冗談はさておき、今年も頑張ってもらいますのでどうぞ宜しくお願い致します。輝ける白鷺青年部の仲間がいる!次々とバトンタッチしていきます。

～つなごう明日へ～

～つなごう白鷺50周年記念大会へ～

～つなごう白鷺の思いを～

～つなごう青年部を～

「白鷺万歳!!」



第44回白鷺連合会青年部吟詠大
—東日本大震災復興支援チャリティー in 奈良—

皆様には日頃より青年部にご理解ご支援をいただき有難うございます。

また、「第43回白鷺連合会青年部吟詠大会」の節には総本部からの祝電を始め、植村鷺登会長、伊東鷺伸先生ほか沢山の方々からお祝いの言葉、激励を頂き誠にありがとうございました。案内状から、プログラム発送まで、何かとご迷惑をおかけ致しましたが、皆様の温かいご支援のお陰をもちまして最後まで頑張ることができました。

この感謝の心と白鷺の和の繋がりが、白鷺青年部の心を繋いでいく原動力になっていくことに喜びを感じ、言葉に表しきれない感謝の気持ちで一杯です。

第43回大会は構成吟で地方青年部員の参加を募りました。当日までの詳細な打ち合わせが精一杯で、全員でのリハーサルはなく、ぶっつけ本番でした。

構成吟のエンディングの際に流そうと思っていたスライドが起動せず大慌てでしたが、懇親会の際、「白鷺の仲間たち」と題して、役員、大会参加メンバーの紹介、過去の青年部大会の画像を何とか皆様にご披露することができました。今回の大会には、広島峽竹支部の辰岡先生と青年部の皆様にお会いできなくて残念でしたが、スライドの画像で参加いただけたかと思っております。

新メンバーが増えたなか、部長経験は初めてで、思うようにいかず悔しい思いをし、反省点もたくさんある中で、皆で精一杯チャレンジしたこと、やりきったことは大きな喜びとなりました。

また、総本部の御来賓、地方の皆様、友好青年部の皆様と、一年に一度のこの機会に友好関係を築ききっかけ作りができ「楽しかった」「元気をもらった」とのお言葉を頂きました。今後も情報交換が出来れば嬉しいです。

大会までに私が体調を崩し、間際までトクバタしましたが、青年部員の皆さんを信じて良かったと思うとともに改めて白鷺の皆さんのチームワーク・結束力の凄さに感嘆しました。信頼できる仲間の大切さを実感し、何よりの宝

物になっております。

大会の内容は充実したものであるのか？コンセプトは？はっきり言ってまだまだで、そこまで完成度がアップしておりません。

次回もできるだけ青年部らしさを大切に、白さぎの集いと思える温かい会にしたいと思えます。大会の反省会で、青年部員は今、働き盛り、子育て盛りの時期であり、詩吟とのご縁が少ない方がたくさんいます。詩吟が仕事以上に負担となるのは問題です。

無理なく楽しくできる活動方法をみんなで考え、一人でも多く若い青年部員が増え、白鷺青年部のためではなく、個人の成長になり、また心が豊かになる……そんな青年部の場であってほしいと願っています。

今後青年部の活動は青年部員数とのバランスを考えて大会や活動内容を考える必要性があり、今行うべきことを見極め、勇気をだして活動していきたいと思えます。

今回の反省、経験を踏まえ、今後の青年部活動を活かし、青年部の若いエネルギーを燃焼できる場を作るとともに、楽しく元気に青年部員増員の活動にも力を注いで参ります。

青年部は、未完成なものばかりですが毎年前進していきます。私の思いは沢山ありますが力はありません。思いを形にできるように、どうかみなさま知恵を貸してください。先生方、ご指導をお願いします。

青年部員一同、力を合わせて頑張っている所存ですので、今後共ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



白鷺連合会青年部結成40周年記念吟詠大会

青年部長 安田 行 軌

白鷺連合会会員の皆様、平素は白鷺青年部に対しご理解とご支援をいただき、有難うございます。

平成19年9月23日、此花区民ホールに於いて白鷺連合会青年部結成40周年記念大会「歩」を開催させていただきました。

当日は遠方より大勢の先生方にご参加いただき、有難うございました。

私事ではございますが、今回の大会が青年部長就任後初めての青年部大会となり、準備から終了まで初体験の連続で、何も分からないままあっという間に終わったというのが率直な感想です。

また、現役青年部員だけでは青年部大会が開催出来ず、大勢の先生方に助け支えられている現状を認識しました。今思い返しますと、いい経験が出来たと実感するとともに、自分自身が少し成長出来たような気もしています。

今回は40周年記念大会ということもあり、例年とは違った事というプレッシャーがあり、色々な事を企画していたのですが、準備期間やマンパワーが足りず、結局は過去の青年部大会のプログラムと「わかさぎ」創刊号から第33号までの展示となりました。

展示した「わかさぎ」や大会プログラムを読み返しておりますと、現在では、総師範・高師範になられた大勢の先生方の名前が並んでおり、白鷺連合会青年部の歴史の重みを実感するとともに、青年部長の責任の重大さを痛感しました。



安田行軌青年部長

ご就任おめでとうございます。

天理支部	親師範 責任講師	植川	村畑	鷺登	先生
	講 師	細川	川 璋	行 先生	
	講 師	上 田	田 璋	包 先生	
	支部長	藤 本	本 璋	白 先生	
大阪伸友支部	支部長	山 本	本 進	進 先生	
岳豊会城崎支部	支部長	原 田	田 岳	種 先生	

でも、もう限界です。

「明かり」が欲しい!

いま、白鷺青年部員は

わずか3名です。

灯も消すも、

皆さんのお心ひとつです。

50歳までの灯りを、是非クダサイ!

連絡先

奈良県生駒市新生駒台 10-17

TEL 0743-73-2826

携帯 090-9990-0901

メールアドレス

masamasamasa1115@yahoo.co.jp

青年部長 安田行軌

現在、青年部役員の減少で活動が行いにくい状況となっておりますが、私たち現役青年部役員はこの40年間続いた「白鷺青年部の灯」を消さないように努力し、次世代へバトンタッチすることが使命だと考えています。

今後とも青年部の活動にご指導ご鞭撻をよろしく願いたします。



頑張る青年部員に歓声が飛ぶ

白鷺青年部

結成二十五周年記念吟詠大会

白鷺連合会

創立四十周年記念吟詠大会

成功させよう!!

を

わかさぎ VOL.32

一つは、白鷺連合会青年部が産声をあげてから三十五歳を迎えたという事。人間でいえば学校を出て成人し、仕事に就き、結婚をし子供も生まれた。やっと一人前になれたことを感謝し、祝いたいこと。

もう一つは、同時多発テロに始まり、今、世界中で、宗教、民族の対立に起因した戦争が始まっています。又、国内においては、政治家の公費不正使用や、政治家個人が役所に対して多大な影響力を持つといった、あってはならないことが多く起っています。

このような社会情勢の中、私達までもが肩をすぼめ、うつむき加減で何か暗い気持ちに陥っている、そんな今こそ、元氣を取り戻し、皆でお祭り騒ぎをしようではないか、というのが今回のテーマの趣旨になった訳です。

どうか会員の皆様、元氣一杯の白鷺青年部結成二十五周年記念吟詠大会にご参加いただき、そして存分に「お祭り」をお楽しみください。

ご挨拶

青年部結成三十五周年

記念吟詠大会によせて

白鷺青年部部长 為 貴 誠 粹

二十一世紀が幕を明け、早くも二
年目半ばに入ろうとしています。

世紀末よりここ数年、白鷺青年部
の存在が危ぶまれて参りましたが、
会員諸先生方の温かい励ましのおか
げで何とか活動を続けることが出
来、この度、青年部結成三十五年の

記念吟詠大会を開催致す運びとなり
ました。

これもひとえに白鷺の諸先輩方、
又、安田会長をはじめ執行部の諸先
生方のおかげと深く感謝する次第で
す。

今回、私達は「周年の祝い」と、
「元氣の回復」を願って三十五周年
大会のテーマを「祭り・フェスティ
バル」とネーミングしました。なぜ
今、テーマが祭りなのか？

これには二つの理由があります。



青年部だより

第三十四回 白鷺青年部吟詠大会

白鷺青年部 福 永 洋 恵

去る七月二十二日(日)に第三十四回白鷺青年部吟詠大会を大会テーマ「癒し」のもとに大阪市此花区住友社員倶楽部において開催させていただきました。本部長伊東賢伸先生はじめ本部青年部来賓の先生方、友好支部来賓の先生方二十五名、白鷺連合会会長安田鷺迪先生はじめ来賓の先生方六十八名を含む総勢二百



三十一名のご出席をいただき盛況のうち一日を終わることができました。今年は選挙のためいつもの会場が取れず、少々手狭な会場となりましたが、よい大会だったとお言葉

をいただき、青年部一同喜んでおります。これもひとえに白鷺の先生方、会員の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

大会は、午前十時青年部企画の山下誠鸞の開会宣言で幕をあげ、山田誠河による力強いボイストレーニング、米田秋澄の関西吟詩文化協会会歌合吟、続いて会員吟詠にはいりま

詠が会場を圧倒しました。

恒例の飛び入り吟詠コーナーでは、山口華雋先生、内海快城先生、中谷滋苑先生のワンポイントアドバイスをいただきました。今年は六名の会員の方とともに、友好支部の先生が参加され、熱の入った飛び入り吟詠となりました。続いて青年部の新鋭、安田匡文の大合吟で午前の部は終了。

午後の部は、青年部長の挨拶の後、白鷺連合会会長、本部青年部部長のあたたかいお言葉で始まりました。詩吟上達講座は昨年に引き続き森口雪孝先生のご講演で、会場一体

となり、『外郎売』に挑戦しました。皆一生懸命、「拙者親方と申すは、御立会いにも……」成果はいかに？ 青年部吟詠構成は、さまざま「癒し」をとりあげ、練習もままならず本番をむかえました。今回の企画は、次期青年部長となります為貴誠粹の企画に基づき、いろいろな癒しのかたちを表現しました。吟界の春団治、山下誠鸞による落語は、会員の皆様を癒すことができましたでしょうか。少ない部員での構成吟、名

古屋支部、日高支部の皆さんのご協

力をいただき完成することができました。友好支部来賓の先生方、本部青年部先生方のご範吟の後、毎年のごことで申し訳ございませんでしたが、白鷺の来賓の先生方には合吟を

お願いしました。白鷺連合会会長安田鷺迪先生のご範吟、関西吟詩文化協会会長伊東賢伸先生のお言葉とご範吟をいただき、最後に全員で青年部会計宮里桃通指揮のもと、宮崎東明先生の白鷺を大合吟し、為貴誠粹の閉会の辞により、第三十四回白鷺青年部吟詠大会を閉会しました。

お楽しみ懇親会は、名古屋支部青年部長加藤芳隆さんにも司会にご協力いただき、和気あいあい皆様の親睦を深めていただきました。本当に暑い一日で、忘れることのできない大会となりました。来年は、六月三十日(日)と開催日も決定しており、新青年部長のもと三十五周年記念大会となります。青年部一同斬新な企画を考え、皆様に楽しんでいただける大会にしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

ある。最初はなかなか上手くいかない。どうしても中音、低音のパートは主旋律につられてしまい、いつのまにか同じ節になってしまったりする。週二〜三回のペースで練習を行った。この頃になると猛練習の成果もでてきて（カーステレオでハーモニー吟のテープを聞きながら走っておられた方もあった）、だんだん上手くハモれるようになってきた。うまくハモれた時はとても美しく気持ちよい。

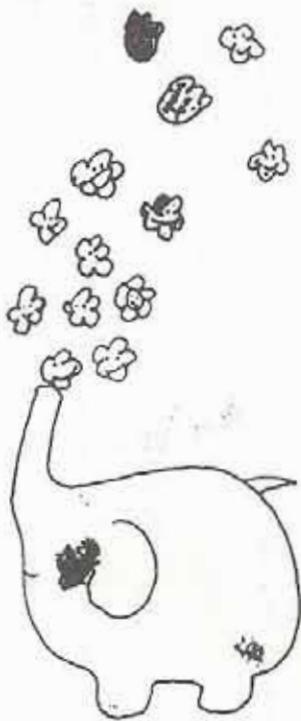
大会当日。練習ではかなりうまくハモれるようになってきていたが、本番でうまくいくかどうか不安だった。本番前の空き時間を利用して少し声合わせをした。なかなかいい調子である。後は本番を待つばかり。メンバーがステージに立ちいよいよ本番。場内アナウンスで「混声三部合唱による中庸」と紹介されたあたりで、僭越ながら指揮をさせていただいた私も大いに緊張してしまった。「勇力の男児は」最初の一節が出された。次からがハモりの部分。「勇力に倒れ」と続く節はきっちりハモっていた。これで安心。最後までうまくいった。

細かいことをいえばいろいろとあるが試行錯誤していた最初のことを考えると、上々の出来である。また会場の方から「きれいにハモっていた」といっていただけたのは嬉しかった。

た。

この後も、今年一月に開催された白鷺連合会創立三十周年記念吟詠大会「日本列島詩吟祭り」や総本部青年部結成十周年記念吟詠大会の「花物語楊貴妃」の中で、ハーモニー吟を行ったが、回を重ねるごとに「よかった」という声を多くいただくようになったのは非常に嬉しいことである。十分なものができたとは思っていないが、一つの企画としてハーモニー吟はおもしろいものであったと思う。今後も機会があればさらにこのハーモニー吟をよいものにしていくことができたいと思っている。

（手記 野島 学）



ハーモニー吟奮戦記

「今度の大会（平成四年、二十五回大会）で何かおもしろい企画はないか。例えば詩吟にハーモニーをつけるとか。」

「それは僕も考えていました。」

「では一度テープを作ってみてくれるか。」

塩路青年部長とのこうした会話からハーモニー吟は始まった。確かにハーモニーをつけて詩吟をやればおもしろいのではないかということは、それまでも漠然と考えていたが、実際やるとなるとどうしてよいのかさっぱりわからない。しばらくは上手くない楽器をいじりながら「大変なことを引き受けてしまった、どうしたらよいのだ」と頭を抱える日々が続いた。試行錯誤の結果、なんとか主旋律の音から三度ずつ音を下げた「中庸」にハーモニー部分の節をつけ（例えば主旋律がソの音を出している時に、中音部、低音部がそれぞれミ、ドの音を出してハモる）、テープに吹き込んだ。しかしながら、自分でも果たしてこれが詩吟といえるのかどうか心配であった。

大会五ヵ月ほど前の青年部役員会で、不安いっぱいこのテープを披露した。しかし、これをテープで流すと青年部役員から「きれいにハモっている、使ってみたらおもしろいのではないか」といっていただき、二十五回大会企画のひとつとして取り上げられることが決定した。

しかし、問題はこれからであった。「中庸」のハーモニー吟は、主旋律の下に中音、低音をつけ三声でハモるという形をとっている。主旋律はともかく、他の二声のそれぞれのパートは普通の詩吟の節とは違い、それだけを聞いていると「何だ、これは!？」という感じのものである。また主旋律の部分にしても他の二声とハモるように吟じなければならないので、普通とはちょっと違う。これを大会当日披露するとしても、誰がやるのか。またどのようにして練習するのか。

結局、青年部役員八名でハーモニー吟をすることになった。練習方法としては、各パートをテープに録音してそれを覚えていただき、それを皆で合わせてハモることにした。

年明けから練習を開始した。最初は慣れない節のため各パートの節を覚えるのも大変であった（なにしろテープに吹き込んだ本人でさえ、なかなか覚えられなかった）。それぞれのパートの節を覚えてからは、いよいよ全員合わせての練習で



というお手紙をいただいたが、その中でハイキング大会にちなんで「曲曲溪登紅葉間」という句を作られたのを拝見し、青年部一同非常に感激した。とても有意義な一日であった。

(手記 野島学声)



わかさぎ広場

秋のハイキング大会報告

平成四年十一月八日(日)、白鷺連合会青年部主催によるハイキング大会を開催した。当日は爽やかな秋晴れに恵まれ、参加者は還暦を過ぎた方から小学生まで四十名にのぼった。

九時三十分、集合場所のJR学研都市線四条駅からまず楠公寺へ。小楠公墓を見学し、境内の広場で「弔小楠公墓」を合吟した。引き続き四条畷神社へ行き、後発のグループと合流。参加者全員で準備体操を行った後、野崎観音ハイキングコースへ。途中の山道はかなり急な坂道になっており、普段運動不足の人にとっては決して容易なコースではない(と普段運動不足の私には感じられた)。元氣な小学生が先頭をきって歩いていくが、それについていくのがひと苦勞。それでも飯盛山山頂に近づくにしたがって見渡せる大阪平野の眺めは素晴らしく、「頂上までもう少し」と元氣が湧いてくる。約二時間かけて山頂にたどりついた。ここで全員で発声練習

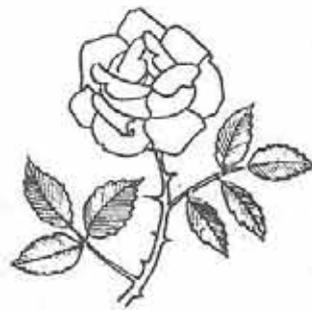
を行った。すがすがしい空気の中、大阪平野を見渡しながらの大声での発声は誠に気持ちのよいものであった。一時間ほど昼食をとり休憩し、全員で記念撮影を行った後、野崎観音へ向かう。これからは下り坂なので楽だろうと思っていたが、これが案外きつい。途中休憩も含め約一時間半かけて事故もなく全員無事野崎観音へ到着。ここで飲んだお茶の旨かったこと(参加された成人の方はビールを飲んでおられたが、私、ビールが飲めませんのでこのような表現になってしまうことをお許しください)。この後、境内にある宮崎東明碑の前で全員で「野崎観音」を合吟して解散となった。

先ほども書いたとおり少しきついコースではあったが、参加された方全員が汗だくになりながら、無事最後まで歩き通された。特に高齢の方が元氣に登られるお姿をみると自分の体力のなさを反省させられた。最終地点の野崎観音に到着した時には参加された方々の表情に心地好い充足感があつたように思う。

後日、参加された方から、この日が「感動の日」であった

西吟詩は……、白鷺連合会は……と、あくまで心のよりどころ、趣味としての詩吟を何とか長く続けてゆきたい。高齢化してゆく関西吟詩の中にあって我々青年部は今何をしなければならぬか？ 結成当初の「若さと情熱」のテーマで燃焼させてこられた諸先輩のエネルギーを今に復活させたい。何とか足掛かりをつかもうと努力されました。母体の白鷺連合会も平成の時代とともに新体制を敷き、三十周年に向けて邁進されておりました。

⑮第十五代青年部長塩路澄誠先生の代は、白鷺青年部が結成されてからちょうど四半世紀の二十五周年を迎えることとなり、平成四年此花区民ホールにて青年部結成二十五周年記念吟詠大会を開催いたしました。「融和そして邁進」というサブテーマは、これを契機にますますの団結と将来に向けての青年らしい活発な活動をしてゆく心意気を表現しようとの意味付けでありました。この代の出来事としては、白鷺青年部長塩路澄誠先生が総本部青年部第六期青年部長を兼務することになったことであります。平成五年三月には、総本部青年部結成十周年記念吟詠大会を開催。白鷺青年部も積極的に参画し、大成功をおさめました。



思い切ったノーネクタイの大会となりました。これより以後、Tシャツ、ノーネクタイの白鷺青年部がすっかり定着し、現在にいたっています。昭和五十八年、この年関西吟詩総本部に青年部が結成され、初代青年部長に、東ブロック青吟会の田中雅雪先生が就任するなど、将来の吟界を背負って立つ若いリーダーの育成の必要性がとられました。

⑪第十一代青年部長清水湧孝先生の代には、機関誌「わかさぎ」十五年記念号を発刊されました。この年の出来事としては、関吟三代目会長の宮崎溪蘭先生が逝去され、総本部会長代理に藤元哲湊先生が就任、叡宮崎会長の後任人事が決まりました。青年部大会は前年に続き、ノーネクタイ、Tシャツで実施。これが以後自由で時代に沿った発想をうながすきっかけとなったのか、次々に新しい企画がうまれてきました。

⑫昭和六十一年、第十二代青年部長酒井翔恵先生の代には、母体の白鷺連合会が主催する吟詠チャリティリサイタルが、十年前と同じく桜橋のサンケイホールにて開催され、今回も青年部OBを中心に自主的に運営、青年部員もお手伝いさせていただきました。これを大成功に終わらせた頃、関西吟詩総本部第三代青年部長に、白鷺青年部第十代青年部長であった森口雪孝氏が就任、白鷺パワーを総本部へ持ち込もうとの

意気が高まって、再びの活性をうむことになりました。昭和六十二年には、母体白鷺連合会が創立二十五周年を迎え、記念大会が開催されました。青年部員及び青年部OBがこれ又自主的に脚本・演出・構成・その他を手がけ、白鷺のますますの結束は吟界の羨望の的となりました。

⑬第十三代青年部長吉田琥孝先生の代には、青年部会員数の減少が各支部・会の共通の悩みとしてうまれてまいりました。極端ではありませんが青年部会員の年令制限を四十歳から四十歳に引き上げるかという意見も出るほどの状況の中から、何とかしようとして青年部独自で会員数の実態把握調査を試みたりいたしました。各支部・会の青年部ではすでに暗黙のうち年令制限を四十五歳に引き上げているところもあり、青年部活動の将来に向け、又一つの問題提起がありました。時代が昭和から平成にかわる年に当たり、これを契機に生まれかわろうとする状況は第十四代へと引き継がれました。

⑭第十四代青年部長山田播弘先生の代には、すでに元号が昭和から「平成」にかわり、時代が大きく変遷してゆくことを感じさせるニュースが相つぎました。東西ベルリンの壁が開放され、東西ドイツが統一されたり、中東の湾岸戦争が勃発したり。さわがしい世の中にあり、それでも吟界は……、関

らしい意気と情熱にもえた活動をしているかなどの反省からの出発でありました。又、遠隔地、地方の青年部員が増加し、青年部全体の半分を占めるようになり、大会その他行事を今後どの様に進めてゆくかの工夫検討が必要となりました。機関誌「わかさぎ」は創刊十周年の記念号を発刊いたしました。

⑨第九代青年部長馬屋原芳郷先生の代には、在阪の青年部員の減少から、一時的な低迷ともいえる時期を迎え、何とか脱出しようと努力され、その手段として、一般青年部会員の年齢制限を従来の三十五歳からやむなく四十歳に引き上げるなどして活性化をはられました。この頃、関西吟詩総本部に青年部を結成させる動きが出てまいりました。発起人代表の一人として伊東鷺伸先生が中心となり、具体案を検討されていきました。これは我々白鷺青年部や各県連、各支部の青年部活動が引き金となったことは言うまでもありません。

⑩昭和五十七年、第十代青年部長森口雪孝先生の代には、青年層の吟道に対する意識の向上をはかり、地方に青年部員が増加して大半以上を占める現状となった今、大会を地方に移し練成大会を実施してみようと試み、岡山で覽照会青年部にお世話願ひ、大会を開催しました。この年は又、結成から十五年目にあたり、浪速区民ホールにて十五周年の青年部大会



も開催されました。従来の大会の雰囲気は、一般の人が会場に入りやすく、何とか肩のこらない参加しやすい大会にと、

会全体が自由を追い求め、逆に気まま、我がままが、まかり通る世の中、それを憂い、戒めが必要との自覚から努力研鑽への活動を試みられました。結成から五年目を迎える前の年という事で記念行事の準備にかかられました。

④昭和四十七年、第四代青年部長に安田鷺迪先生が就任された時、青年部は結成から、ちょうど満五年を迎える事になりました。記念行事の一つとして、各方面から既に期待を寄せた声があり、その準備検討がされてきた機関誌「わかさぎ」を創刊されました。年一度しか会えない吟友と紙面を持って交流し、青年部発展の一助とするを目的とし、その後現在に到るまで毎年発刊されています。

⑤昭和四十九年、第五代青年部長高見鷺播先生の代には、それまでに青年部活動として、世話役に徹して各支部への青年部発足をうながし、各けいこ場を訪問したり、合宿でディスカッションしたりした事の集大成として青年部会員も点から線へ、それを層に持ってゆく努力をされました。反面この四十九年という年は、先の「関西吟詩同好会」が創立四十周年を迎える事となり、これを機に組織が拡大され「社団法人関西吟詩文化協会」へと変貌、同時に規約の改正が成され、白鷺吟詠会も「白鷺連合会」と名称を改めました。「黎明」と

いう大会テーマの第七回青年部大会は、こうした背景から、これよりはじまる新しい動きに対して、アンチテーゼを含む警鐘を打ち鳴らす企画で実践されました。

⑥昭和五十一年、第六代青年部長村上鷺魄先生の代には、古い吟界よりの脱皮、詩吟を一般化する為の努力が成されました。白鷺青年部のOBを中心として、この年の一月十七日、桜橋サンケイホールにて松尾鷺恵先生の吟詠チャリティリサイタルを開催。企画、構成、脚本等、青年部と青年部OBが自主的に活動し大成功をおさめました。

⑦第七代青年部長幸田鷺宝先生の代には、結成より十年目を迎え、十周年大会を開催されました。吟詩道精神の原点にかえり、思い新たに再び「和」の精神で絆を結び、団結と前進をテーマとされました。

⑧昭和五十四年、第八代青年部長原龍声先生の代には、役員改選で、「鷺」雅号の諸先輩もいなくなり、以後二世が青年部を前進させてゆく事となりました。いわゆる孫さぎ、ひ孫さぎの時代となりました。「鷺」雅号の結びつきは少なからずの結束を産んだでしょうし、絆も強かったはずですが、新たな絆を強固に結んでゆく事の必要を感じながら、白鷺青年部は伝統のうえにあぐらをかいていないか……、青年部



と発展をとげつつありましたが、昭和四十二年十二月二十一日、白鷺の恩師伊豆丸鷺洲先生は他界されました。生前のご

遺志を受け継ぎ、一段と「鷺」の雅号保持者は団結を誓い合い、特に若い青年層がこの頃から将来の吟界発展を背負って立つべく、自主的に活動をしてゆこうとの機運が高まってまいりました。それは恩師伊豆丸鷺洲先生が、お墓の下から「たのむよ」と青年に将来を託された様な出来事でした。青年部発起人会の決定で初代青年部長に平田鷺撰先生が推薦され、昭和四十三年六月二日「若さと情熱」という大会テーマを掲げて、青年部結成吟詠大会が、吟界でも注目される中魁をいく形で開催されました。

②昭和四十五年、第二代青年部長故佐々木鷺郷先生の代には、益々の青年部団結のための活動を推進されました。所属の各支部・会に青年部が発足される様働きかけ、又その為の討論会や合宿を開催、吟力向上とともに、組織を運営してゆくリーダー育成に努力されました。親睦交流の手段としての機関誌発行計画も検討される様になりました。昭和五十一年、吟界全体の青年リーダーとして将来を嘱望された佐々木先生は激務多忙の中、当時四十二歳という若さで死去されました。廻りのなげき悲しみは筆舌に尽くしがたいものでありました。太く短き人生であったと思われまます……。

③昭和四十六年、第三代青年部長北田鷺仰先生の代には、社

わかさぎ24号企画

白鷺青年部四半世紀の歩み

編集部

昨年の四月、白鷺連合会青年部結成二十五周年吟詠大会を開催させていただきましたが、その中の企画の一つに、構成「青年部二十五年の歩み」と題したものがありません。ナレーターが各代の活動の歴史を語りながら、歴代青年部長が各代の代表者として舞台上に並んで座し、順に吟じてゆくというものでした。

その時のナレーター用原稿を編集部は、一部手を加え、今回の「わかさぎ」にとどめておこうと考えました。にわかまとめ、調査不足などから、不十分な内容ではありますが、白鷺青年部三十周年の時には、もっと史料を集めればな史誌をつくってもらえるものと期待いたします。

白鷺連合会青年部は昭和四十三年結成以来、各代が青年の個性と特色を、おのおの自主的な活動を通して展開してまいりました。決してワクにはまる事なく、自由な発想、アイデアを良く生かし、古き良き白鷺の伝統を本質で見極めながら新しい事にチャレンジしてゆくという、その根底に流れる精神は今も脈々と受けつがれております。

①昭和九年に社団法人関西吟詩文化協会の前身である「関西吟詩同好会」が発会されました。それと同時に白鷺の恩師

伊豆丸鷺洲先生も入会。その後ひたすらに吟道普及を实践された鷺洲先生は、大阪はもちろん、京都、奈良、岡山、広島と関西を中心に会員を増していかれました。

昭和三十八年、今から三十年程前に恩師の「和」の精神を受け継ぎ、「鷺」の雅号保持者で関係の深い各支部、各会が相互に親睦をはかりながら吟界の発展に尽くすのをねらいとして現白鷺連合会の前身である「白鷺吟詠会」が結成されました。初代会長に塩谷鷺声先生が就任され、ますますの団結

青年部現役役員の素顔と名簿



尾上美千恵 和田彩香 坂本住子 藤原博世

福永恵子

池田久志 石本明敬 中岡克典

青年部役員氏名等一覧

役名	氏名	雅号	会名
部長	池田 久志	恍 聖	撮友会
副部長	中岡 克典	蒼狼声	鷺声吟詠会
会計	安田 匡文	行 軌	やまと吟詩会
会計監査	福永 恵子	洋 恵	鷺恵会
企画	阪本 和世	苑 鈴	淞苑会
〃	森 佳奈子	佳 仁	撮友会
〃	河野 文	纓 煌	鷺伸吟詠会
〃	石本 明敬	恍 武	撮友会
〃	藤原 博世	凜 声	鷺声吟詠会
〃	大岡 麻衣	涼 森	船場吟詠会
〃	尾上美千恵	紅 篁	志舟会
〃	坂本 住子	輝 篁	志舟会
〃	川見 和人	岳 緑	岳豊会
〃	福原 聡	叡 森	船場吟詠会
〃	山根加奈子	瞭 星	鷺伸吟詠会
〃	和田 彩香	彩 仁	撮友会
相談役	森口 寛二	雪 孝	撮友会
〃	塩路 晴彦	澄 誠	澄声会
〃	北浦七口工	広 恵	鷺恵会
〃	為貴 健司	誠 粹	青誠会南

編集後記

白鷺連合会青年部が発足して半世紀（50年）を迎えるにあたり、記念になるものを作りたいという企画を立てました。

そのひとつが、廃刊になっていた白鷺青年部広報機関誌「わかさぎ」の復刻臨時号の発刊でした。「白鷺青年部 50年の歩み」をにわか仕立てですが、青年部 OB の皆様に助けていただきながら、何とかまとめることができました。

平成 29 年度最後の行事として「第 50 回白鷺連合会青年部記念吟詠大会」は、あましんアルカイックホール・オクトにおいて無事に開催されましたが、記念小紙として皆様のお手元にお届けできましたことは、誠に胸を撫でおろす思いです。

内容につきましては、ご意見多々あると思いますが、次の 60 周年（還暦）大会への宿題として取り組んで参りますので、なにとぞ、ご容赦ください。

青年部創設当初のテーマ「若さと情熱」が脈々と引き継がれて、今日の青年部があります。温故知新、温故新生で白鷺青年部は、ますます時代を見据えながら邁進して参りますので更なるご指導ご鞭撻いただきますようお願いいたします。

第 24 代青年部長 池田 恍聖

発行者
公益社団法人関西吟詩文化協会 承認 白鷺連合会 青年部

発行年月日 平成 30 年 2 月 10 日

責任者 松尾佳恵
池田恍聖

編集者 池田恍聖
青年部 OB 有志

印刷 黒田タイプ印刷有限公司
TEL 078-707-5038